

## 平成24年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：横浜市立上の宮中学校

担当：美術科

氏名：北村 佳子

### 1. 今回の研修における目的やねらい

この研修ではタンザニアという国の現状を知り、タンザニアを通して開発教育とは何か考えることを目的としています。また、アフリカの伝統的な美術の世界を知ることと、困難を解消するために発揮できる美術の力について考えていきたいと思えます。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

研修前には開発教育、国際理解教育がどんなものかよくわかりませんでした。事前研修でのワークショップや研修中に経験したことで少しずつ考えることができました。多様な価値観を認め合うということがまず大切だということが改めてわかりました。そういう力を育てるためには美術科の特性を生かすことができるのではないかと思います。工芸品や生活雑貨、写真、インタビューなどの資料なども集めることができ、これからどのように教材化していくか考えていきたいと思えます。

### 3. タンザニアから学んだこと

#### ●「つながり」を大切にする社会

今回の研修では学校や地域コミュニティ、博物館など多くの施設や個人のお宅まで見学させていただきました。その中で特に印象に残ったのは、タンザニアの多くの人たちが自分たちの部族の文化に誇りをもっており、家族やコミュニティのつながりを大切にしているということです。環境的な要因も多々あると思えますが、お互いに助け合って生きているということ強く感じました。

日本では経済発展に伴って生活様式や家族形態も変わり、一人でも生きていくことができる環境になるとともに人と人とのつながりは希薄になっていました。その結果、高齢者の孤独死や少子化など多くの社会問題が生まれました。東日本大震災を経験し、日本でも家族の大切さや絆が改めて見直されてきましたが、タンザニアでは今後の発展の中で、今ある「つながり」がどのように変容していくのか大変気がかりです。

#### ●一人ひとりを見つめることと教育の大切さ

事前に実施した授業の中でクラスの生徒に、タンザニアってどんな国？という質問をしました。その時には気づきませんでした。タンザニアという国を考える時に国という大きな枠だけで捉えようとしていたように感じます。自分自身の知識、情報のなさからそのような質問になってしまったのだと思います。しかし実はそこに暮らす一人ひとりのことを見つめることが大切だということを研修の中で感じました。どんな人がどんなことを考えながら、どんなことを大切にしながら生きているのかということに目を向けることが何よりも重要だということです。その一人ひとりが社会をつくり、社会が国をつくっています。人を育てることは国を育てること。人を育てる教育は、国を育てることであり、未来をつくることであるということを実感し、自分自身が教育について抱いていた想いを改めて考え直す機会になりました。

#### ●「遠い国」から「近い国」へ

第一回目の事前研修で、タンザニアと聞いて思い浮かぶことを書き出した時、驚くほど何も浮かばない自分がいました。タンザニアに到着するまでも大変長く感じたこともあり、最初は物理的に

提出期限：平成24年8月16日（木）

も精神的にも「遠い国」でした。しかし、タンザニアの人々と接したり、一緒のものを食べたり、街を歩いたりする中で、日本と同じように人々が生活し、生きているということを実感し、「遠い国」から「近い国」と感じるようになりました。少し恥ずかしがり屋で、おとなしく、真面目で優しい人柄に触れるにつけ、日本人と似た印象を受けるようになりました。多くの部族や異なる宗教の人々が争いもなく共存しているということも、タンザニアの人々の温和な気質によるものが大きいのではないかということがわかりました。遠くに感じていたタンザニアも日本と同じなのだということを学びました。

#### ●コミュニケーション能力の大切さ

教員養成学校での生徒との意見交換で、思うように意思疎通ができず悔しい思いをした経験から、言葉とコミュニケーション能力はどんな世界でも大切だということを痛感しました。また、約120の部族が平和に結びついているのも、スワヒリ語という共通語を大切にしているからなのではないかとわかりました。

#### ●JICA 事業の現場と支援のあり方について

開発支援といえばお金による援助が一番に思い浮かんでいましたが、その国が発展した時にその状態を国民自身が維持していくことができるシステムづくり、人材育成が支援の中でもとても大切な物であるということがわかりました。タンザニアの人々が自分たちの手で開発し、自分たちの手で発展させていくという意識を高めることも支援の1つだということを感じました。人を育てていくという点で、支援と教育は共通しているということがわかりました。

#### ●青年海外協力隊員をはじめとする日本人の活躍

特にイリンガでの研修の中で、イリンガとその周辺地域で活動されている協力隊員の方々に大変お世話になりました。学校や地域の中で信頼を得ている姿は大変頼もしく、地域に根ざした活動が印象的でした。ぜひ子どもたちに紹介し、世界に目をむけるきっかけにしたいと思いました。

#### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

子どもたちだけでなく、教職員にも開発教育についての理解を得ることが必要と考えました。美術科の授業以外でもすべての教育活動において伝えることができるようにしていきたいと思っています。タンザニアで起こっている様々な問題を、どこか遠くの国のこととしてではなく、自分たちと同じように暮らしている人たちがどんなことに困っているのか、そして自分には何ができるのかということ子どもたちが考えられるような問いかけをしていきたいです。

#### 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

##### ●よかったこと

研修への応募を決めるところから事前研修、今後の活動も含めてすべての経験が自分にとってプラスになっています。自分が世界とどのように関わるかということをおんなに考え続けた日々は今までありませんでした。また、この研修を通して多くの出会いをえられたことが一番よかったことです。

##### ●よりよくするための提案

今回、JICA タンザニアの足立さんや協力隊の方々に協力していただいて、地元の方々と意見交換できました。しかし、かなりの負担をおかけしてしまったので、できれば通訳専門の方がいらっしゃるといいのではないかと感じました。地元の人々の暮らしに近い場所で話しを聞いたりすることができることによりよいと思います。受け入れていただく学校には大きな負担になってしまいますが、学校での時間をもう少し長くとれるとよかったと思いました。

## 6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

今回の研修ではかけがえのない経験をさせていただきました。教師海外研修は今後もぜひ続けていただきたいと思います。このような研修があること自体あまり知られていないので、同僚にもこの研修のすばらしさや意義を伝えていきたいと思います。そして、ぜひこれからも多くの先生方に参加していただきたいと思います。

## 7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

事前、研修中とも、まず第一は健康管理です。出発前日まで仕事が長引き、行きの飛行機であまり眠れなかったということもあってか、到着した日から翌日の午前中までかなりひどい頭痛に悩まされました。頭痛薬の助けもあって長引きませんでした。最初はどうなることかと思いました。忙しいスケジュールの中でゆっくり休むことは難しいかもしれませんが、できるだけ睡眠や食事をしっかりとるようにすることを心がけていました。

また、アンケート（インタビュー）用紙を作って全員が持っておき、いつでも聞くことができるようにしておきました。子どもを中心に聞きましたが、移動中に偶然会った人にも尋ねることができました。短期間の研修なので、みんなで分担して情報を集められる工夫をしておくといいと思います。教材購入の時間も限られているので、思い立ったらすぐを買っておいた方がいいです。迷った時はとりあえず買っておい方がいいです。

## 8. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
7月29日(日)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	成田からタンザニアまではとにかく長く感じた。ドーハからダルエスサラームまでのフライトは特に長く感じたが、コーランを聴きながらこれからの研修に期待と少しの不安を抱えた複雑な気持ちで過ごしていた。空港に降り立った時は日本からはとても遠い国に来てしまったというのが率直な感想だった。ダルエスサラームは想像以上に都会で、自分の中に植え付けられていた「アフリカ」というイメージとはかけ離れていた。自分はこの研修で、いったい何を見て、何を学ぶべきなのか少し不安に感じた。
7月30日(月)	JICA タンザニア事務所表敬	勝田所長にご挨拶をし、それまでメールのやり取りをしていた足立さんとも初めてお会いできた。翌日からの研修がとても楽しみになった。
7月31日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	タンザニアの概要と教育・道路・水セクターそれぞれの担当の方からお話しをいただいた。たくさん質問が出て、参加者の意気込みが感じられた。実際に現場を見てみないとわからない部分もあったので、研修の中で確かめないとけない。
7月31日(火)	市内視察（教材購入）	事前に安全について十分気をつけるようにということ念入りに注意されていたので警戒心でいっぱいになっており、地元の人たちとすれ違う時でさえ緊張し、自分自身で壁を作ってしまった。

提出期限：平成24年8月16日（木）

7月31日(火)	本日の振り返り	思っていたよりも都会だという印象を多くの人を持っていた。イスラム教徒とキリスト教徒がどうやって共存しているのかということや、人々がどういうことに価値を持って生活しているのだろうかということを考えた。子どもたちに意味のある問いかけとはどういうものか考えた。
8月1日(水)	ミクミ国立公園、タンザム幹線道路改修計画	運が良ければ見られるかもと言われていた野生のゾウやキリン、シマウマなどの動物を間近に見ることができて感激した。日本が支援して改修した道路も実際に通り、道路がこの国にとってとても大切なものなのだとということを実感した。
8月1日(水)	イリンガ隊員との懇談	長時間のバス移動で疲れがあったが、美味しい料理と隊員さんたちとの会話で楽しい時間を過ごすことができた。イリンガは寒く、ダルエスとの違いに国の広さを感じた。
8月1日(水)	本日の振り返り	ダルエスサラームとイリンガの違いに、都市部と地方の格差を感じたり、いろんな人たちが生きているということを考えてたりした。どんなことを考えて生きているのだろうか。そしてわかったことをどういう風に子どもたちに伝えたいかということ考えた。
8月2日(木)	クレルー教員養成学校 横山隊員	生徒との意見交換の中では「日本はどうやって発展したのか?」「日本での教師の立場は?」「日本の学校で問題になっていることは?」など、大変熱心に質問をされた。自分に語学力がないばかりに、相手の言いたいことを十分に聞き取ることができないばかりか、自分が伝えたいこともまともに伝えることができず、とても悔しい思いをした。しかしこの経験から、人と人とのコミュニケーションに言語は大きな役割を果たしているのだということ強く感じさせられた。
8月2日(木)	イフンダ中等学校 幾山隊員	交流を予定していたクラスの生徒たちが寮に戻ってしまっていたためどうなることかと思ったが、生徒たちを集めてくださり、日本を紹介する授業を行うことができた。職員のみなさんもうたいへん親切で、チャイの時間に意見交換ができたことがよかった。ここでも日本の発展についての質問が多く出て、タンザニアの人たちの国の発展に対する強い思いを感じた。
8月2日(木)	本日の振り返り	イフンダ女子中等学校の職員の方が言った国民それぞれが愛し合っているという言葉が印象的だったという話題が出た。果たして日本ではそういう言葉が出るだろうか。豊かさとはなんだろうということ考えた。
8月3日(金)	ンゴメ小学校 谷村隊員	子どもたちが歓迎の歌や踊りが忘れられない。職員のみなさんも子どもたちも精一杯のもてなしをしようとしてくださった気持ちに胸がいっぱいになった。交流授業では

提出期限：平成24年8月16日（木）

		子どもたちの素直さと元気な笑顔に感激した。国が違って も、子どもは子ども。とてもかわいい。授業はあっという 間に終わってしまったが学校の外まで子どもたちが見送 りに来てくれて、とても名残惜しかった。
8月3日(金)	コミュニティ訪問	議員の方の案内で、地域の診療所や共同水道、水道番をし ているおじさんの自宅まで見学させていただいた。自分た ちの手で持続可能なシステムを守っているという自信と 誇りを感じた。
8月3日(金)	Mkwawa 博物館	とても小さな博物館だったが、学芸員の方々が大変熱心に 説明をしてくださり、思いがけず長い時間見学した。博物 館近くの神聖な木の説明では昔からの言い伝えや部族の 誇り、先祖が守ってきたことを大切にしているということ を感じた。
8月3日(金)	本日の振り返り	タンザニアの人たちが自分たちの手で持続可能なシステ ムを守っているということは、国の発展にとってとても大 切なことではないかと考えた。集団行動が苦手だという意 識を持っていたが、実はとてもつながりを大切にする人た ちではないか。日本の方がよっぽど希薄ではないかという ことを考えた。
8月4日(土)	地方道路開発技術向 上プロジェクト視察	日本ではあって当たり前の道路だが、人々の暮らしにとて も密接に関わるものなのだと感じた。村の人々 が発展の中で大切にしたいこと は「団結」だという言葉 が印象的だった。アンケートをとらせていただいた村のお じいさんに「何のためにアンケートをとるのか？自分たち を助けてくれるのか？」と問われた時に、答えることがで きず、自分たちに何ができるのか考えさせられた。
8月4日(土)	イリンガ市内視察	イリンガだけでなく、ンジョンベからもわざわざ協力隊員 の方に駆けつけていただき、ガイドしていただきながらイ リンガ市内を探索した。短時間だったが、市場を歩いて 人々の生活を間近に感じる事ができて大変有意義な時 間だった。予定にはなかったが、ガンギロンガの岩山に登 ってから見た夕日は今でも忘れられない。
8月4日(土)	専門家との懇談	現地で仕事をする上での苦労や気をつけていることなど を聞くことができてよかった。
8月5日(日)	イリンガからダルエ スサラームへの移動	すっかりイリンガが好きになってしまっていたので、離れ るのは寂しかった。途中で立ち寄ったバオバブの木はとて も大きく、生命力を感じた。昼食場所では支払いのトラブ ルもあったが、そんな経験も貴重だったと思える。同乗し ていた満永隊員と話しができたこともよかった。隊員の方 々の苦労や異国で暮らす気持ちなどを聞くことができて 大変ためになった。

提出期限：平成24年8月16日（木）

8月5日(日)	本日の振り返り	日本とタンザニアは似ている部分が多いのではないかと いうことを考えた。おじいさんに「何のためのアンケート？」と聞かれて答えられなかったことから、私たちに何 ができるのかということ考えた。
8月6日(月)	首都圏周辺地域給水 計画視察	フェリーに乗って移動して日本が支援した給水システム を見学した。たまたま訪れた小学校は教室に椅子や机、電 気もなく、床に大きな穴があいていた。地方だけでなく、 大都市においてもまだまだ格差があるということを感じ た。
8月6日(月)	JICA タンザニア事務 所 討論会	JICA タンザニア事務所の職員の方々も交えて、ワールド カフェというワークショップに参加した。タンザニアの発 展のために自分ができることは何か、意見交換するこ とができてとても有意義だった。日本の子どもたちに伝えてい かなければならない責任の重大さを感じた。
8月6日(月)	教材購入	ティンガティンガ村では職人の作業を見学し、教材購入を することができた。短時間だったので、余裕がなかったの が残念だった。
8月6日(月)	本日の振り返り	みんなとても疲れていたが、話題は尽きなかった。研修中、 ずっと同行していただいた足立さんやローザさんに寄せ 書きを書いた。
8月7日(火)	JICA タンザニア事務 所 研修報告会	研修を振り返り、自分が学んだこと、感じたことを勝田所 長に報告した。すべてをお伝えしきれなかった感が残った が、他の参加者の考えも聞くことができてよかった。
8月7日(火)	在タンザニア日本大 使館表敬訪問	大使公邸でのお茶会はとても緊張したが、この研修で感じ たことを大使にお話しすることができた。
8月8日(水)	タンザニアから日本 までの移動中および 日本到着	帰りたくないという気持ちでいっぱいだった。絶対また来 る！という決意を胸に、足立さんやローザさんとお別れを した。研修中にあったことをいろいろと思い出していると、 行きは長く感じた道程もとても早く感じた。